能美市老人クラブ連合会とのタウンミーティング

日　時　　令和５年１１月２８日（火）１６時３０分～１７時５０分
会　場　　八松苑
参加人数　６５名

１．開会

２．老人クラブ連合会長ご挨拶

３．市長講演

〇令和５年度予算編成方針

・能美市の予算の編成方針は、７つの事業、施策があり全てを移住定住の促進につなげていこうとやっている。

・移住定住の促進に何でつなげるかというと、自治体の勢いを示す数値目標は、私は人口だと考えている。人口が増えていると、そのまちは人気がある、皆さん長生きされているということから、移住定住の促進、人口増を目指していこうというのが能美市の方針。

・令和5年度予算額は約268億円。最近おかげさまで市税、税収が好調です。令和元年に初めて市税が90億円を超え、昨年は90億9,200万円となり過去最高を更新した。

・コロナ禍でいろいろと苦労されている自治体がおられる中、何故能美市は好調なのかというと、企業誘致が好調なため。新しい建物ができると固定資産税が入ってきたり、大きな会社さんが来られると法人市民税が入ってきたり、地元の企業さんも好調で増床したり、売上げが伸びていることから、税収がおかげさまで堅調に伸びている。

・人口がどうなっているかというと、人口は社会動態と自然動態という２つに分かれる。引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増。

・今、生まれてくる赤ちゃんが少ない、お亡くなりになる人が多いことから、日本全体が自然減になっている。能美市は、引っ越して行く人よりも、引っ越してこられる人が多い

ので、能美市は社会増にはなっているが、最近自然減が大きくなってきて、社会増ではカバーできなくなってきている。能美市は現在人口減少状況にはあるが、何とか自然減を食い止め社会増を伸ばしていこうといろんなことをやっている。

・昨年過去経験したことのない大雨が降り、１時間当たり86ミリの雨が降った。どちらかというと里山地区に大きな雨が降って、被害が大きかったと想像されるかもしれないが、実は能美根上駅のそばや福島町も大きな被害があり、市内全域で大きな雨の被害があった。

・床上、床下浸水が180件、水が入った農地が20ヘクタール、土砂が入った農地が12ヘクタール。イノシシの柵が２キロにわたって壊され、鍋谷川にあった頭首工は全部破壊された。

・令和５年度にいろんな施策をやっていく中で、まずは災害対策。それから市民力、地域力の強化に取り組んでいく。能美市の強みは、市民の皆さんが自分たちの町、それから近所の人たちが頑張るという力が強いまちだと思っている。

・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って人流が制限されたことで、今この市民力、地域力が大分落ちてきてしまっている。例えば、壮年団も人数がだんだん減ってきていたり、婦人会や女性会も解散するところが出てきた。市民力、地域力は能美市の一番の強みなので、これをもっと強化しなければいけないといろんなことをやっている。

・知名度、認知度なんですが、私が東京に行って名刺を出すと「のうみ市の市長さんですね」と。「のみ」となかなか読んでもらえない。全国に約1,700を超える市町村がある中で、どうやって「のみ」という知名度を上げていくかが重要になってきている。

・自然動態の増進では、子宝や子育て施策をさらに充実させ健康寿命を伸ばす、どんどん長生きしてもらおうということ。

・ＧＸの推進というのは、カーボンニュートラルと言って、CO_2をどうやって削減していくかという取り組みをやっている。

〇災害・事故対策

・災害、事故対策では、例えば鍋谷川や西川、熊田川の堤防をかさ上げしたり幅を広げたりして、昨年と同じような雨が降っても同じような被害が出ないように取り組んでいる。

・体育館が避難所になる可能性があるが、体育館は夏は暑いし冬は寒いことから、市内の３つの体育館に冷暖房を完備した。長期間、体育館で避難される場合に備えた。

・能美市のいろんな企業にも避難所として協力をしてもらったり、大規模な災害があったときに、ブルドーザーやショベルカーを貸してもらえるように協定を結んでいる。

・自然災害だけでなく、宮竹小学校エリアでは町内を猛スピードで通り抜けていく車が多い。そうすると子どもたちが事故に遭う可能性があることから、このエリア内は30キロ以上スピードが出せないよう、ゾーン３０プラスということをやっている。

・防災ガイドブックはご自宅にあると思います。大きな被害があったときに、自分たちがどんな行動をするのか。それから、どんなことに気をつけておかないといけないかをぜひ一回、読んでおいていただきたい。昨年大雨が降ったときに、タントが避難所になっていたがタントの周りに水がついてしまい避難できなかったという声があった。今もう一回、防災ガイドブックを作り直している。

・昨年の８月４日の雨は朝５時半だった。夏休みで子どもたちはほとんど学校へ行かず家にいた。ただ、８時頃になって、そんな大きな雨が降っていると知らずに働きに行った人も結構おられた。独り暮らしの高齢者の方が災害時にいざ逃げようと思っても、誰かに助けてもらわないと逃げられない。自然災害というのは大雨だけではなく、地震や雪、それから大きな火事もあったりするので、自分で逃げられない人は、誰かの助けを受けて、どこに避難しないといけないということを事前に決めておく必要がある。それを個別避難計画と言っていて、今それを少しずつやっている。

・昨年の大雨で被害が大きかった地域から始めていて、大変なのは、自分を助けてもらう人を見つけておかないといけない。例えば息子さんがいたとしても、仕事に行っていたら助けてもらえない。なので時間帯やどんな災害かということを全部網羅しながら、個別避難計画をつくっていこうと計画しています。

・和気小学校の周りの寺畠町が今回一番被害が大きかった。今、この辺りの川の幅を広げたり、堆積土砂を取ったりしている。鍋谷川は梯川に注いでいるが、梯川というのは角度が緩くなかなか海に注がない。そうすると雨がたくさん降ると鍋谷川に水が戻ることがあり、鍋谷川の水がなかなか梯川に入っていかないので、梯川自体をもっと水が流れる、ためておける川にしてもらわないといけないと両方の対策をいろいろ国と県がやってくれている。

・西川、熊田川は手取川の下流部に注いでいる。この西川、熊田川も手取川の水が戻るバックウオーター現象が起きることから、福島エリアの川幅を約２倍に広げるということと、手取川に樋門を造ってバックウオーターにならないような取り組みも今やっている。

・これまで河川の工事をやろうとするととても時間がかかっていたが、今回はすごいスピードで国も県もいろいろやってくれていて、本当に皆さんに安心・安全を感じてもらえる

ように、一日でも早く見える形で工事が進むように、いろんな取り組みをやっている。
・昨年の雨もそうだが、皆さんが能美市から避難指示が出たことを確認するのは防災行政無線だと思う。ところが防災行政無線は、ほとんどのご家庭は居間にあったり台所にあったりする。その場にいなかったら聞こえない。それから大量の情報を音声で流しても全部聞き取れないということから、能美市の公式LINEやメールでも配信をするようにした。公式LINEでは危機管理の情報だけでなく、能美市のいろんな情報、お得な情報もお流ししている。友だち登録しておくと、例えば、東京等の遠方に行っていても自分のところの地域に何があったか全部分かる。ぜひ登録しておいてほしいと思っている。
・老朽化している施設をどうやって補修していくかも災害対策の一つになる。公共施設はいろんなところで工事をやっている。市内には11の小中学校があり築50年以上が面積比で35%ある。建て替えていかなくてはならないということで莫大な費用が必要。保育園、児童館、公民館や公園も傷んでいる。上下水道管も下水道管で市内に約430キロ走っている。１年間に10キロずつぐらい整備しているが、なかなか追いついていかない。
・案内看板も結構古くいまだに寺井駅と書いてあるような看板もある。全部で3,000か所ぐらいあるがこれも整備していく必要がある。案内看板も在り方が変わってきていて、今皆さん、目的地に行くのに地図を広げて、看板を見ながら行く人はほとんどいない。車のナビかスマートフォンで確認する。そうすると看板の在り方も変わってきて、丁寧な地図の看板でなく、もっと何か楽しい看板にできないかと考えて補修をしている。

〇市民力・地域力の強化
・根上り七夕まつりや辰口まつりなど多くの人たちに来てもらい、そこで交流してもらえるそんなイベントをたくさんやっていきたいと思っている。
・文化、芸術、芸能のイベントに来ていただく手段もいろいろ考えたい。イベントをやるだけでなく、いかに来てもらうかも考えないといけないと思っている。
・市史の編さんを進めている。根上町史、寺井町史、辰口町史はある。ところが能美市になって市史というのがない。県内に11の市があるが、市史がないのは野々市市と能美市だけだと言われている。
・今年が加賀立国能美誕生1200年ということで、いろんなイベントをやった。いしかわ百万石文化祭は10月14日から11月26日まで44日間やっていた。皆さんにも多分お越しいただいたんじゃないかと思う。

・今年、寺井、湯野、粟生、和気、宮竹の小学校が創立150周年を迎えた。各小学校でそれぞれいろんな式典をやり、行事をやっていた。

〇知名度、認知度の向上

・サンリオという会社のキャラクターで一番人気がある「シナモロール」というキャラクターに能美市の応援大使になってもらった。どんどん能美市のことをＰＲしてもらおうと思っている。

・ギネスに挑戦ということで、今皆さんに折り紙を折ってもらってギネスの世界記録を狙っている。最高記録が１万何千枚なんですが、能美市は20,2433枚を目指している。何で20243枚かというと、新幹線開業するのが2024年の３月だから。結構好評でして、皆さんが折った１枚がギネス記録に含まれるという事になるので、ぜひご協力いただければと思う。

・松井秀喜さんに協力してもらい、能美市のPRビデオを作った。松井秀喜さんが生涯で初めてアフレコをしたということで、全国ニュースで何回も取り上げられた。それで能美市がちょっと有名になった。10月末まで白山イオンの映画館で、映画が始まる前に必ずこれが流れてもいた。

・ハードの整備もしている。根上のパークゴルフ場をきれいにする。クラブハウスを新しくして、コースも一部整備し駐車場もきれいにする。

・辰口の加賀産業開発道路の脇に昔フラワーハウスがあった。そこが空き地になっていて、道の駅機能を持った施設をそこにつくろうと思っている。あの場所は近くに動物園があったり丘陵公園があったり、たくさんの人が往来するので、何か能美市の観光土産を買うようなところをつくりたいと思っている。

・福島グランパークでは、加賀海浜産業道路が開通し橋が一本できて、結構便利になった。グランパークは全部で23ヘクタールあったがほぼ完売した。澁谷工業さんや歯愛メディカルさんが進出され、ここで700人の雇用が生まれる。

〇自然動態の増進

・健康寿命を延伸させるということから、健康診断にもっと行きましょうと言っている。皆さんも健康診断をしっかり受けられていると思うが、特に30代、40代の人がなかなか健康診断に行ってもらえない。

・高齢者が外出する機会をもっと増やすべきだと、いろんなことをやり始めている。孫ま

ご教室といって、じいちゃんに出てきてもらうことをやっている。孫とどんな接し方をすればいいのか、じいちゃんばあちゃんの役というのが結構あって、そんなことを優しく教えてくれる、そんな機会もあるので、お出かけをしていただければと思う。

・泉台にある亀齢荘が新築になり、高齢者だけじゃなくて、子どもやいろんな人が集って楽しめるような施設になる予定。

・第９期いきいきプラチナプランというのは、高齢者の皆さんにどうやって暮らしていってもらおうかということ。これまでは、いきいきシルバープランと言っていたが、シルバーはくすむがプラチナはいつまでも輝きが失われないことから、プラチナプランに名称を変えた。

・65歳以上の人が高齢者となるが、これまでのプランはどうやって長生きしてもらうかということばかりやっていたが、そうではなく活躍してもらおう。もっと地域を応援してもらおうということにした。実際、今能美市内に74の町会、町内会があって、会長さんの年齢を聞いたら結構皆さん上。民生委員・児童委員さんも。だからまだまだ皆さん頑張ってもらう。皆さんの活躍する場をこの第９期いきいきプラチナプランに盛り込みたいと思っている。

・北陸鉄道能美線の跡地の健康ロードは、桜の木を植えてあり本当にきれい。通学路としても使われているけれども、桜の根が隆起したり街灯がなかったりするので、これを能美根上から天狗橋のところまできれいにしようと考えている。昔駅があったところは、それが分かるようにして、その駅の周辺にはどんな観光地があるとか、どんなウオーキングロードがあるのかが分かるようにしよう。全長で16キロあるんですが、結構距離も長くお金も時間もかかるので、完成を2025年の秋にしている。何で2025年かというと、能美電が開通してちょうど100年、廃線になって45年、能美市制20周年の年。この時に合わせて整備を進めている。

〇ゼロカーボンシティ

・2013年に排出していたCO_2を2030年には半分にしましょう。2050年にはゼロにしましょうという世界的な目標です。じゃあ何をすればよいかなんですが、市民の皆さんに取り組んでいっていただけるような計画をつくりました。

・どんな計画かというと、会社の皆さんにはできるだけCO_2が出ないようなエネルギーを使ってください、と言うようなこと。住宅では太陽光発電に切り替えてもらうとか、省エ

ネに取り組んでもらうとか、ごみの分別、リサイクル等々をやってもらおうということ。農業を振興させようということもやっている。これがＣＯ$_2$削減につながる。

・農業の話で少し脱線するが、能美市はタマネギの生産量が県内ナンバーワン。それから、ハトムギもナンバーワン。皆さん御存じの加賀丸いもや国造ゆずもある。国造ゆずは無農薬で、世界でも無農薬のユズというのはなかなかない、農業もいろいろと頑張っている。

・カーボンニュートラルガスというのは、普通のガスに比べ値段が少し高いけれどもその差額で世界に木を植えている。そんなガスを能美市で使い始めている。

・太陽光発電は夏の太陽が出ているときはどんどん発電してくれますが、冬や夜は発電してくれない。それなら夏や昼間に作った電気を電池に貯めておいて夜使うという取り組みを始めようとしている。

・やはり公共交通を使うことはカーボンニュートラルにつながる。いろいろなところでタウンミーティングをするといろんな人からご意見がある。のみバス、もっと便利にしてくれ、ダイヤを増やしてくれ、ルートをいいのにしてくれ、停留所をうちの近所に持ってきてくれ、いろんなことを言われる。そこで、この１か月間にのみバスに乗った人、と聞くと二、三人しか手を挙げてもらえない。のみバスは、１回100円で乗れる。連携バスと循環バスを乗り継いでも100円で乗れる。自分が乗りたいバスが今どんな状況であるのかは、スマートフォンを見るとダイヤ、ルート、停留所、全部分かる。それから、自分が乗ろうとしているバスがあと何分で来るか、どれだけ混雑しているかが全部分かるので、是非利用いただければと思う。

〇能美スマートインクルーシブシティ

・デジタル化にいろいろ取り組んでいる。なかなか難しい名前ですがインクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味で、スマートというのはデジタルという意味。デジタルの技術を使って誰も取り残さないまちをつくっていこうということをやっている。高齢者や障害をお持ちの方、子育て世代、お子さん、全ての能美市にいらっしゃる人たちが自宅や保育園、学校、公民館、地域や庁舎でもスマートインクルーシブをやっていこうといろんな取り組みをやっている。

・今日は、自宅と公民館の話をご紹介したい。まずは医療介護情報連携システムからご説明したい。例えば、病院に入院していた人が退院して自宅で療養を始めたとする。そうすると、かかりつけ医さんやケアマネさんや、いろんな療法士さんにお世話になるけれども、

この人がどんな病気にかかっていたか、どんな薬を飲んでいたかはカルテが違うから分からない。

・現在はお医者さんによってカルテが違うので、病院を変えるとどんな薬を飲んでいたかや、どんな病気になったか新しいお医者さんは全然わからない。このカルテを電子カルテに置き換えて、Web上にデータを保存しておき必要なときに必要な人が見れるようにしましょうという取り組みを始めようとしている。

・一人暮らしの人が具合悪くなって、近所の人が救急車を呼んでくれたとする。そうすると救急隊は、この人がどんな薬を飲んでいたか、どんな病気だったとか、どんな症状だったかを、病院に連れていくときに把握して連れていかないといけないが、本人は具合が悪いから言えない。そんな時も、Web上にデータを保存しておき救急隊が必要なときに必要な情報を取れるようにということを始めようとしている。

・市内には病院が３つ、クリニックが全部で25ぐらいある。そこで使うカルテや電子カルテも全部同じカルテにして、さらに共有化を進めたいと考えている。そうすると、皆さんが風邪をひいたときにＡという医院、胃が痛いときにはＢという医院に行っていたらそれぞれの医院でカルテが違うので、他にどんな薬を飲んでいて、今までどんな病院に行っていたか分からなかった。それがカルテが共有になれば、Ａというお医者さんがＢでどんな治療を受けていたか、そんなことが分かるように今やろうとしている。

・認知症の方がいなくなった時には、みんなで探さないといけない。みんなで探すけれども、名前しか分かない、その人の特徴を防災行政無線で言われてもなかなか分からない。事前にこの人の情報を登録しておくと、市内の町内会長さん、町会長さん、民生委員・児童委員さんは、全員タブレットを持っている。事前に登録しておけば、写真が送られるようになる。市民でも協力したいという人がいれば、その人たちのところも写真が行くようになって、すぐに見つけられるかもということをやっている。ぜひ皆さんも探すほうに登録してもらいたい。

・ＩｏＴ家電を使った取り組みも始めていく。最近の空気清浄機は喋るんです。今日は何月何日です。晴れです。御飯食べたか。おやすみなさいと言う。空気清浄機の中にいろんなセンサーが入っていて、部屋の中の空気を分析する。そうすると、最近寝るのが遅いようですが大丈夫ですかとか、体調に異変はありませんかと言う。

・そういった機能を使って、能美市に大雨洪水警報がされた。能美市から避難指示が発令された。時に空気清浄機が伝えてくれるようにしたいと考えている。エアコン等の電気の

スイッチを長い間入れないと、安否が確認できませんと例えば東京や金沢に住んでいるご家族に知らせてくれる。まず能美市では、お独り暮らしの100人を対象にこの事業を始めていく。そこでいろんな検証をして、これあったほうがいいんじゃないかという声がだんだん大きくなれば今後広げていきたいと思っている。

・スマート新聞と言って、今は紙で新聞を読みますが、電子化して自分が見たい情報だけを見れるようにしたりできる。それで毎朝新聞を見ないようになると、登録しておいた家族のところにどうも最近新聞を見ていない、何かあったんじゃないかとお知らせがいくようにしましょうと、今していこうかと考えている。

・能美市にも各町にいろんな公民館がある。その公民館を使っていろんなことをやろうと考えている。例えば、小学生とか中学生はＧＩＧＡスクール構想でみんなタブレットを持っている。家でやるのではなくて、公民館に集まって友達と一緒にタブレットを使って勉強する。そこに、おじいちゃん、おばあちゃんがスマホ教室をやってみたりゲームをやりに来ることで、一つの公民館に高齢者や子育て世代の若い人や子どもたちも集って、みんなで交流できるような仕掛けをつくっていく。

・月に１回、高血圧や糖尿の人は薬をもらうのにかかりつけ医さんに行っていると思う。そんな診察を公民館に行って、お医者さんへ行かなくても診てもらえるようにできないか。

・公民館にカメラをつけておいて、子どもたちがちゃんと通ったか、雪がどれだけ降ったか、雨がどれだけ降っていて水がどれだけたまっているかを見れるようにするとか。市役所へ行かなくても行政の手続ができるようにしようとか。こんなことを公民館でやれたらなと今始めている。

・市内で74の公民館があるが全部が全部同じような機能を持つ必要はないんじゃないかと思う。私が住んでいる寺井町は近所にスーパーがあったり、医院があったり、市役所の窓口も近い。そういったところは多世代間の交流の場にすればいい。里山地区や、それから市内でも中心部よりちょっと離れているようなところは、住民票を取りに行ったり、オンラインで診療が受けられたり、お店に行かなくても公民館に物を持ってきてもらえるようにそれぞれの公民館ごとの置かれた状況や特徴を生かして、いろいろとモデルケースを使ってやっていこうと考えている。

〇おわりに

・いろいろやっていこう、それからやろうとしていても、我々行政だけではできない。や

はり市民の皆さんの意見を聞いたり、私もそうですし、市の職員自らが皆さんのところに直接行って聞く。それから現場を見る。

・最近私が言っているのは、新型コロナウイルス感染症が拡大したことに伴って、今まで事例として当たり前だったことは通用しませんと。大きく世の中は変わっている。もう一回、現場に足を運んで、いろいろ見ましょうという話もしているので、今日こういった場も本当に私にとってはありがたい。

４．質疑応答

（質問１）

【参加者】先ほどの病院と個人とのカルテを一体化するという、それは能美市内か。私は金沢に主治医がいる。金沢の主治医との連携もできるということか。

【市長】まずは能美市内だけでやるが、将来的にはそういったことになると思う。実は、石川県にはＩＤ－Ｌｉｎｋという仕組みがあり、デジタルカルテの情報がそこには入っている。ただ問題は、その情報というのはすごくプライバシーが高い情報なので、誰でも簡単に引き出せるというわけではない。

　例えば私も高血圧の薬等を飲んでいるが、それくらいであればみんなの前で言ってもいいと思うが、私はそんなに大きな病気はしていないが、例えば過去にこんな病気をしていた、命に関わるような病気をしていたということ等、やはり知られたくない情報もある。だから、すごくプライバシーが高い情報なので、それをどの部分まで誰が引き出せるようにするかが結構大変なことなので、しっかりと取り組んでいく。ただ、将来的には、おっしゃるようなことになってくると思う。

（質問２）

【参加者】のみバスですが、能美市の健診で胃カメラを受けに行く時は８時前に入らないといけない。芳珠病院は７時半にならないと扉が開かない。扉が開いたらすぐ入りたいので、その時間帯のバスがないと胃カメラは麻酔を打ってくれない。だから自分の車で来た人でないとやってくれない。

【市長】お住まいは、どの辺りですか。

【参加者】泉台です。

【市長】泉台の連携バスで、芳珠には早い時間行っていなかったですか。

【参加者】行ってないです。

【市長】そういうご意見があったことを記録しておいて。皆さんのお声にお応えをしていきたいんですが、問題は何人乗るか。バスの定員は29人乗りです。乗る人が３人ぐらいだとちょっと寂しい。

【参加者】もうちょっと小さいバンを出すとか。今の大きなバスは空っぽ。

【市長】他でもそんな需要があることは把握している。ご意見はよく分かりました。

５．老人クラブ連合会副会長ご挨拶

６．閉会